

令和8年度第2回淡路市総合教育会議 議事要旨

日時 令和8年8月17日（月）午後3時30分～午後4時40分

場所 淡路市役所2号館3階 大会議室4・5

協議事項（1）次期教育大綱案の検討について
（2）市内中学校における事案について（非公開）
（3）意見交換

出席者 市長 戸田 敦大
教育長 角村 光浩
教育委員 岸本 伸明（職務代理）、丹野 典子、久保 雅一、川野 りえ

企画情報部付部長（まちづくり政策担当） 野田 勝
企画情報部次長兼まちづくり政策課長 平本 雅稔
企画情報部まちづくり政策課係長 宇城 英稔
企画情報部まちづくり政策課主査 明石 那奈
教育部長 水名口 博行
教育部長兼指導主事 山本 哲
教育部付部長（公民館、図書館担当） 奥田 拓也
教育部次長兼教育総務課課長 岡山 正道
教育部教育総務課係長 長田 圭介
教育部教育総務課主査 吉田 和樹

1 開会

挨拶 戸田市長

2 協議事項

- ・事務局より傍聴規定に基づき会議公開の説明
- ・議長（市長）より本会の目的・趣旨の説明

（1）次期教育大綱案の検討について事務局より説明

委員：基本理念の候補について、「共創」という言葉自体は非常に良いと思うが、誰が読んでも意味が分かるような表現という点では、「つながり」の方が分かりやすいの

ではないか。また、教育において「学び」は生涯を通じて欠かすことのできないものであり、文全体を読んだ印象としても「学びとつながり」がしっくりくる。

委員：基本理念の説明文にある「地域に根付く」という表現について、「根付く」は古くからその地域にいる人をイメージさせるが、「根差す」であれば、新しく地域に入ってきた人が、これから地面に足をつけて地域に根差していくという未来も含めた表現になるのではないか。

委員：重点目標４の「国生みの島・淡路のストーリー」という表現について、初めて読む人には内容が分かりにくいいため、「歴史文化遺産」または並記するなど、より具体的に伝わりやすい言葉にしてはどうか。

委員：重点目標５に「リカレント教育」が盛り込まれていることについて、変化の激しい社会では大人も学び直す必要があり、高齢者に限らず、誰もが社会の変化に合わせて再び学ぶことが重要であるため、この言葉が入っていることを高く評価する。

委員：前回から「学びとつながり」がよいと考えているとした上で、「共創」を使うのであれば、淡路市における「共創」が具体的に何を意味するのか、何を共につくるのかというイメージをしっかりとって使う必要がある。「人をつくる」のか「まちをつくる」のか、あるいはそれら全てを含む壮大な概念なのかが明確でないと、言葉だけが一人歩きするおそれがあるため、分かりやすさでは「学びとつながり」がよいのではないか。

委員：地域に根付く人と人とのつながりについて、もともと地域に人とのつながりがあることを表したいのであれば、あえて限定せず「人と人とのつながり」としてもよいのではないか。

委員：日本遺産については、事実として認定されているので「日本遺産」という言葉をそのまま入れる方法もあるのではないか。認定当初と比べて市民の意識が薄れている面もあり、明記することで改めて意識してもらえる可能性がある

事務局：日本遺産については、淡路島観光協会が中心となって淡路島全体で認定を受けており、淡路市はその一部である。

委員：リカレント教育について、不登校などにより学校に行けなかった子ども、外国から来た人、就職等でつまずき別の道を歩もうとする人など、様々な事情を持つ人がいることに触れ、「何歳になっても可能性を広げることができる教育」が必要である。一人一人が持つ力を最大限に生かせるまちづくり、そのための教育であるという視点を大切にしてほしい。

委員：基本理念については「学びと共創」がよい。教育大綱である以上「学び」という言葉は重要であり、様々な形の学びを通じて思考が広がり、他者を気遣い、思いやることにつながる。単に勉強するという意味ではなく、視野を広げ、人と人とが協力して生きていくための基礎としての「学び」を位置付けたい。

委員：「共創」は難しい言葉ではあるものの、変化の激しい時代に、様々な立場の人が意見を出し合い、その時々課題や未来の課題を共に考え、解決策を生み出していくという意味で、「ただつながる」だけより一歩踏み込んだ、上下関係ではなく様々な人が対等な立場で意見を言い合い、自分たちの生活をより良くしていくという視点を表せるため、「学びと共創」がよい。

委員：「地域に根付く」という表現について、自身が淡路出身ではないこともあり少し引っかかりを感じる。一方で、淡路の良さは人と人がつながっていることであり、少し話をすれば誰か知っている人や関わりのある人につながる安心感があるとした。その地域の強みを生かしながら、「どんな方もウェルカム」という開かれた姿勢も伝わる表現にできればよいとの意見があった。

委員：「国生みの島・淡路のストーリー」は、言葉だけでは具体的なイメージが浮かびにくい。

委員：「学び」「つながり」「共創」の3つのキーワードについて、他自治体や教育分野でどのように使われているかを調べた。「学び」は教育大綱や教育方針で広く使われており、教育分野になじみのある重要なキーワードである。「つながり」も、人と人、地域社会、過去から未来へのつながりなど、幅広い意味を持ち、教育分野で多く用いられている。「共創」は比較的新しい言葉であり、一般にはまだ十分ななじみがない一方、近年、教育分野にも入ってきている言葉である。文部科学省が重視する学びの方向性と淡路市の教育方針とも合致しているため、「学び」というキーワードは外せないと考えた。「つながり」には、①人と人とのつながり、②地域社会とのつながり、③過去から未来へのつながりという意味が考えられ、これも非常に良いキーワードである。総合計画でも「共創」を掲げるのであれば、教育大綱でも「学びと共創」とすることに意味があるのではないかと。

委員：説明文の中で「つながりと共創を通じて…」と重なる部分があるため、どちらかを削除。ここでは、説明の文章となるため「つながり」を残してもよいのではないかと。

委員：重点目標について、「誰一人取り残されることがない」という表現は、国の文書でも重視されている考え方であり、ぜひ残してほしい。また、「人が中心のデジタル活用」という表現について、デジタル化そのものを目的にするのではなく、あくまで人を中心に置いていることが明確で非常によい表現である。リカレント教育についても重要な役割を示すものである。

市長：基本理念について、議論を踏まえると「学びとつながり」又は「学びと共創」のいずれかを軸に整理する。「共創」は意味が広いことから分かりにくさがある一方、その広さゆえに多様な価値観を含むことができる。「つながり」はよりストレートに伝わるが、共創に比べると意味の広がり限定される面もある。

委員：どちらの案も悪くなく、最終的にはどの言葉に重みを置くかという判断になる。

市 長：「学びと共創で未来を切り拓く人づくり」とする場合、教育の力で未来を切り拓くためには「共創」なのか、もしくは「つながり」なのか。

委 員：「共創」とするのであれば説明文で明確にする必要があるのではないか。

委 員：学校現場では、教育大綱の冒頭を見て市が目指す教育の姿をイメージし、その方向に近づけるための取組を考えることになる。そのため、市全体の理念と共通の言葉を使う方がイメージしやすいのであれば、総合計画と同じ「共創」を使う意義がある。一方、「学びとつながり」は日本語として非常に自然で分かりやすい。「共創」を使うのであれば、どのような人づくりを目指すのかが説明文で描かれ、現場で理解できるようにすることが重要。

教育長：総合計画と教育大綱はできるだけ整合を図った方が、学校現場を含め教育に携わる人にとって市の方向性が分かりやすい。「共創」が説明しにくいのであれば、説明文の中で意味を丁寧に表現すれば受け入れやすくなる。教育委員会としてもその方向で一定の意見集約が見えてきたのではないか。言葉や表記そのものにも意味を持たせることが大切である。特にキャッチフレーズ等では、本文の公用文表記と必ずしも同一でなくても、なぜその表記を選んだのかという考え方を説明できるように整理しておくべきである。また、人権的な観点からの表記や、「生かす／活かす」などについても、意図を持って使うのであれば問題ない。

市 長：議論を踏まえ、基本理念については「一人一人の可能性を引き出し、学びと共創で未来を切り拓く人づくり」を軸として整理する。「地域に根付く」等の説明文については、これから地域に入ってくる人も含めた、閉じた印象のないオープンな表現に整理してはどうか。

教育長：教育委員会として意見を出したので、市長部局で整理いただきたい。重点目標２の「多様性の包摂」については、できれば言葉を残してほしい。

市 長：本日の意見を踏まえて事務局で改めて整理し、教育大綱案を最終確定していく。

（２）市内中学校における事案について

令和８年７月１日に市内中学校において発生した事案について、報告を行った。

教育委員会としての今後の対応方針等について、質問及び意見があった。

（３）意見交換

３ 閉会